

都市再生整備計画 事後評価シート  
所沢駅周辺地区

令和8年2月

埼玉県所沢市

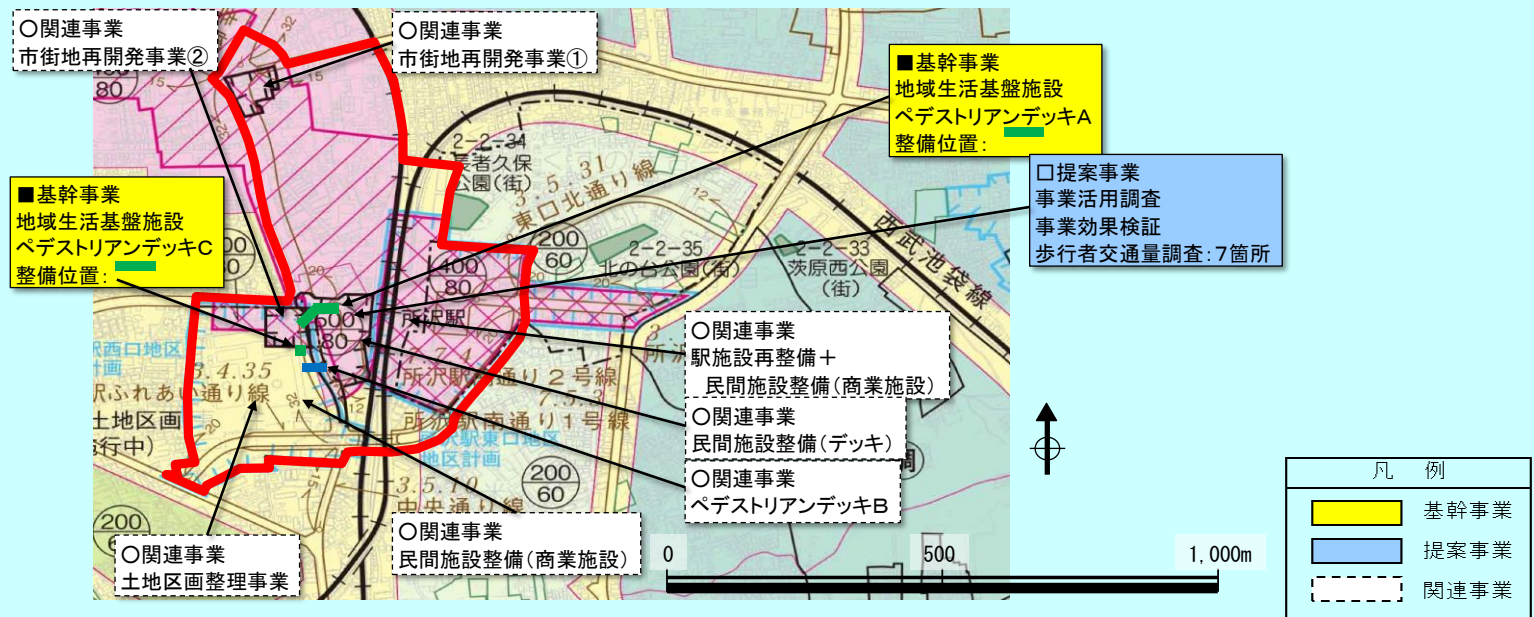
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	埼玉県		市町村名	所沢市		地区名	所沢駅周辺地区			面積	33.0ha	
交付期間	令和元年度～令和5年度		事後評価実施時期	令和7年度6月		交付対象事業費	973百万(国費389百万)	国費率	40%			
1)事業の実施状況	事業名											
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設 人工地盤等(ペDESTリアンデッキA、C)									
		提案事業	事業効果検証									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	地域生活基盤施設・情報板整備	情報板の整備予定箇所である所沢駅西口駅前広場について、改修を含めた次期計画策定を検討しているため。				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 数値目標への影響は考えられるが、具体的な数値の積算が困難なため、数値目標は変更しない。				
		提案事業										
	新たに追加した事業	基幹事業										
提案事業												
交付期間の変更	当初		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み			
	指標1	地区内回遊者数	人/h	12,670人/h	H28	37,000人/h	R5	16,329人/h	△	あり なし	● 所沢駅西口地区への来訪者は増加したが、想定していた回遊ルートを歩行する歩行者が少なく、駅から新規開業の商業施設への往復だけの歩行者が多いため。理由として、北側のデッキが駅に直結していない構造であることや、人の集まる場所が少ないことが考えられる。	
	指標2	歩行時間	秒	616秒 (10m16s)	H30	526秒 (8m46s)	R5	484秒 (8m4s)	○	あり なし	ペDESTリアンデッキ等歩行空間の整備により、歩行時間が短縮され利便性・安全性が向上した。	
	指標3									あり なし		
	指標4									あり なし		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み			
	その他の数値指標1											
	その他の数値指標2											
その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況												
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング	所沢駅西口駅前広場に関するアンケート調査結果について				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				○	アンケート結果を基に今後の整備内容の検討を行う。	
	官民連携による取組					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	持続的なまちづくり体制の構築					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						

## 様式2-2 地区の概要

所沢駅周辺地区(埼玉県所沢市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値	
所沢駅周辺地区におけるまちづくりの将来像である「市の表玄関にふさわしい魅力と活力あふれる新生活拠点」として、様々な多くの人が集まり、楽しく行き交い、また安心してくらすことのできるまちを実現するため、計画的な土地利用誘導と市街地開発事業を推進する。 目標: 所沢駅周辺を結ぶ歩行者ネットワークの形成による、まちの利便性・回遊性の向上	地区内回遊者数	単位: 人/h	12,670 H28	37,000 R5	16,329	R6
	歩行時間	単位: 秒	616(10m16s) H30	526(8m46s) R5	484(8m4s)	R6
		単位:	H	R		R
		単位:	H	R		R
		単位:	H	R		R



まちの課題の変化	2つのペDESTリアンデッキを整備したことにより、所沢駅周辺を結ぶ歩行者ネットワークが形成され、利便性・回遊性が向上した。また、歩行空間が整備されることにより、歩行時間が短縮され利便性・安全性が向上した。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の駅前広場は交通広場を主たる機能として昭和の時代に整備され、駅の西方面に商業地区が広がることを想定していない設計であることから、回遊性の拠点となるような機能が必要。</li> <li>新たに整備された商業施設と既存の商店街との間の人の流れについて、ハード面での整備だけでなく、ソフト面の取り組みが必要。</li> <li>駅と新たな商業施設間の歩行者数が大きく増加したが、その流れが北側の既存の商業地区にまで十分及んでいない。</li> <li>(北方面の)銀座通りまで含めて回遊性を見直す必要がある。木造密集や基盤整備が整っていない商店街を含むエリアについて、防災性も含め今後の方向性を決めていくことも必要。</li> </ul>

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 官民連携による取組みの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化  
(北方面の)銀座通りまで含めて回遊性を見直す必要がある。木造密集や基盤整備が整っていない商店街を含むエリアについて、防災性も含め
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1ー① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		○			
B. 目標を定量化する指標		○			
C. 目標値		○			
D. その他( )		○			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園									
河川	(北方面の)銀座通りまで含めて回遊性を見直す必要がある。木造密集や基盤整備が整っていない商店街を含								
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	ペDESTリアンデッキAC	1,157	ペDESTリアンデッキ新設 情報板整備	965	ペDESTリアンデッキ新設	情報板整備の削除	数値目標への影響は考えられるが、具体的な数値の積算が困難なため、数値目標は変更しない。	○	
高質空間形成施設									
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと



添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度		基準年度		目標年度						あり	なし		
指標1	地区内回遊者数	人/h	R7.3.23に歩行者交通量調査を実施。調査結果を基に算定。		12,670人/h	H28	37,000人/h	R5	モニタリング			モニタリング				●
									事後評価	確定見込み	○	16,329人/h	事後評価	△		
指標2	歩行時間	秒	所沢村山線沿いにある金融機関(地方銀行前)から所沢駅中央改札口までの歩行時間。		616秒 (10m16s)	H30	526秒 (8m46s)	R5	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定見込み	○	484秒 (8m4s)	事後評価	○		
指標3									モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定見込み			事後評価			
指標4									モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定見込み			事後評価			
指標5									モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定見込み			事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	所沢駅西口地区への来訪者は増加したが、想定していた回遊ルートを歩行する歩行者が少なく、駅から新規開業の商業施設への往復だけの歩行者が多いため。理由として、北側のデッキが駅に直結していない構造であることや、人の集まる場所が少ないことが考えられる。	目標値設定の際、大規模開発地区関連交通計画マニュアルにて算出した人数をそのまま回遊者数としたが、実際には駅と商業施設のみ往復する人も多いため、その割合も考慮して設定する必要があった。
指標2	ペDESTリアンデッキ等歩行空間の整備により、歩行時間が短縮され利便性・安全性が向上した。	
指標3		
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度		基準 年度						
その他の 数値指標1							モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		
その他の 数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		
その他の 数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
所沢駅西口駅前広場に関するアンケート調査結果について	予定どおり実施した	○ 回答期間：令和7年3月11日(火)～3月28日(金)まで 回答者数：562人	アンケート結果を基に今後の整備内容の検討を行う。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
部内検討体制	所沢駅西口区画整理事務所 市街地整備課	令和7年5月8日 令和7年5月30日	所沢駅西口区画整理事務所

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標○		指標○		指標○		指標○	
指標名		歩行時間							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	地域生活基盤施設 人工地盤等(ペDESTリアンデッキA、C)	◎	ペDESTリアンデッキ等歩行空間の整備により、歩行時間が短縮され利便性・安全性が向上した。						
提案事業									
関連事業									

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ー：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用				
-------	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標○			指標○			指標○			指標○										
指標名		地区内回遊者数																			
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類								
基幹事業	地域生活基盤施設 人工地盤等(ペDESTリアンデッキA、C)	△	所沢駅西口地区への来訪者は増加したが、想定していた回遊ルートを行く歩行者が少なく、駅から新規開業の商業施設への往復だけの歩行者が多いため。理由として、北側のデッキが駅に直結していない構造であることや、人の集まる場所が少ないことが考えられる。	I																	
提案事業																					
関連事業																					

※目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- ー：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<p>目標値設定の際、大規模開発地区関連交通計画マニュアルにて算出した人数をそのまま回遊者数としたが、実際には駅と商業施設のみ往復する人が多いためそうした割合も考慮する必要があった。</p> <p>北側のデッキが一度地上部に降りる構造となっているため、今後の駅前広場の改修の際に検討が必要。</p>		
------------------	---	--	--

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
所沢駅周辺まちづくり連絡協議会	知識経験者(大学教授)、関係機関(商工会議所、青年会議所、鉄道会社等)、商業関係者(商店会、大規模店舗等)、町内会、市職員	年1~2回(不定期開催)	市街地整備課

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
コンパクトで暮らしやすい、魅力と活力あふれる新生活拠点としての整備が求められている。	・当事業によるデッキ築造の他、関連する土地区画整理事業や市街地再開発事業により、都市機能の集約・更新が図られた。		駅と新たな商業施設間の歩行者数が大きく増加したが、その流れが北側の既存の商業地区にまで十分及んでいない。
新たな商業施設と既存商業施設等の回遊性・連携を促す歩行者ネットワークの構築に取り組む必要がある。	・当事業によるデッキ築造により、北側の既存の商業地区と接続が図られ、ネットワーク化された。	今回整備したデッキの東側にある駅前広場は、昭和の時代に整備されたが、人が集まる場所としての機能や平成末期に再整備された駅舎や歩行者デッキとの接続に課題がある。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	新たに整備された商業施設と既存の商店街との間の人の流れ	ハード面での整備だけでなく、ソフト面の取り組みが必要	・エリアプラットフォームによる各種取り組み

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策  ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	駅前広場の機能	現在の駅前広場は交通広場を主たる機能として昭和の時代に整備され、駅の西方面に商業地区が広がることを想定してない設計であることから、回遊性の拠点となるような機能が必要	・駅前広場(デッキを含む)の改修、改善

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

● 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
● 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
● 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
● 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
● 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

- ・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	地区内回遊者数	人/h	12,670	H28	37,000	R5	確定 ●	16,329	△	あり	●	R8年3月	評価時と同様の歩行者・自転車交通量調査を実施予定	
							見込み			なし				
指標2	歩行時間	秒	616	H30	526	R5	確定 ●	484	○	あり				
							見込み			なし				
指標3				H		H	確定			あり				
							見込み			なし				
指標4				H		H	確定			あり				
							見込み			なし				
指標5				H		H	確定			あり				
							見込み			なし				
その他の数値指標1				H		/	確定			あり				
							見込み			なし				
その他の数値指標2				H		/	確定			あり				
							見込み			なし				
その他の数値指標3				H		/	確定			あり				
							見込み			なし				

### 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		・同様の目標を定める場合には、他地区の事例などを参考として適切な値を設定する必要がある。
	うまく いかなかった点	目標値の設定について、商業施設の完成による歩行者増加をそのまま回遊者数として見込んでいたが、駅と商業施設を往復するだけの人も多いため、そうした点を考慮して設定を行う必要があった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・駅前広場アンケートについては、当事業により実施したわけではなかったが、デッキの課題や改善策について多く意見が寄せられたことから、参考となった。	・エリアプラットフォームの取り組みなどにもアンケート結果は活用できると考えられる。
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

#### 添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後、駅前広場(デッキ)について改修を検討し、都市再生整備計画を活用する可能性はあるが時期は未定。

## (5) 事後評価原案の公表

### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	所沢市ホームページ	令和7年8月6日～公開中	随時	担当課への電話・メール等	経営企画課
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ	評価委員会の公開	・第1回:令和7年6月30日 ・第2回:令和7年11月11日	随時		
その他					

住民の意見	特になし				
-------	------	--	--	--	--

## (6) 評価委員会の審議

### 添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	杉崎 和久 法政大学 法学部政治学科 教授 委員長 櫻田 和子 l'unica(ルニカ)計画研究所 代表 寺内 義典 国土館大学理工学部理工学科 教授 宗政 由桐 山形大学大学院理工学研究科 准教授	令和7年6月30日 令和7年11月11日	経営企画部 経営企画課	所沢市公共事業評価委員会条例	所沢市公共事業評価委員会
その他の委員					

審議事項※1	委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	
方法書	特になし
成果の評価	電車の利用者は増えているが、思った以上に駅と商業施設間の往復だけの人が多く、回遊性を引き出せていないのではないか。交通量調査については、今後も実施するのであれば属性も含めて捉えよといのではないか
実施過程の評価	特になし
効果発現要因の整理	(北側のAデッキが接している)商店街の通行者数が減っている。このエリアを含めた街づくりについて検討が必要。
事後評価原案の公表の妥当性	妥当である(答申)
その他	特になし
事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	特になし
今後のまちづくりについて審議	
今後のまちづくり方策の作成	エリアプラットフォームがあるが、駅周辺のエリアマネジメントを誰がどのようにやるのか、整理が必要
フォローアップ	特になし
その他	特になし
今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	(北方面の)銀座通りまで含めて回遊性を見直す必要がある。木造密集や基盤整備が整っていない商店街を含むエリアについて、防災性も含め今後の方向性を決めていくことも必要。
その他	当計画が含まれる社会資本整備総合計画「所沢駅周辺地区整備計画(第2期)」と併せて諮問していることから、今後のまちづくりに関しては、全体的な意見として述べられたものである。

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

### (7) 有識者からの意見聴取

#### 添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
実施なし		

有識者の意見	
--------	--